

平成 31 年度 (令和元年度) 自己評価表

【中長期目標(学校ビジョン)】

岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実に対応でき、他者と「協働」して物事に取
り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。
- 2 部活動を推進し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。
- 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。
- 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。
- 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。

	具体的項目	平成 31 年度当初			評価結果(2月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 キャリア教育の充実	進路実現	・7 年連続して進路実現 100%。そのうち第 1 志望での合格・内定率は 95%を超えた。 ・2 年生の 1 月末時点での進路希望未決定者は約 5%であった。 ・より高い進路実現を目指す。 ・就職後 1 年以内の離職率が県平均より高い。	・進路実現 100%。 ・第一志望合格内定 90%以上。 ・2 年生 1 月末時点での進路希望未定者が 5%未満。 ・就職後 1 年以内の離職率を県平均に近づける。	・系列選択、科目選択、進路選択等の場面におけるガイダンス機能の充実。 ・日ごろの面談の充実。 ・全教職員で全生徒を指導する意識の共有。 ・定着指導の徹底。 ・高い目標を掲げさせ、就職活動に主体的、積極的に取り組ませる指導の徹底。	・校内事業所説明会を 3 年生就職希望者対象に 5 回、10 事業所について、1・2 年生就職希望者に 1 回、4 事業所について実施した。 ・5～6 月にかけて、卒業生の勤めている各事業所を積極的に訪問し、卒業生の現状把握および面談を実施した。平成 30 年 3 月卒業生の 1 年以内離職率は 7/32 人、21.9%となり前年の 12/34 人、35.3%から大幅減。また、平成 31 年 3 月卒業生については、令和 2 年 1 月現在 2/33 人、6%であり、激減している。 ・3 年生の進路目標達成は 8 年連続で 100%、そのうち第一志望の達成率は 90%であった。 ・1 3 年ぶりに鳥取大学合格者がでた。 ・2 年生進路希望未定者、12 月時点 6%(3/46)、現在面談実施中。	B	・定着指導の継続実施。 ・進路専任面談の充実 ・1、2 年担任との情報交換、進路研修の場を設定。 ・特に、大学進学希望者に対しては進路目標の実現に向けてより早い段階で指導を開始。 ・国公立大学合格プロジェクト等の個に応じた対応を継続して実施
2 心身のバランスのとれた人間の育成	部活動の振興	・部活動全員加入を原則としており、未加入者は 0 名。	・全員加入の継続。 ・部活動に対する満足度が高く、忍耐力、礼儀、自己肯定感が向上している。	・部活動指導計画に基づいた適切な運営をとおり、技術向上のみならず人間的な成長を支援。	・1 月末段階で部活動未加入者は 1 年生 5 名、2 年生 2 名である。	C	・学年団、顧問の先生と連携を取り、指導をしていく。 ・既存の部活動での活動が難しい生徒に対応するためイワツクラブ再設置の検討が必要。
	基本的生活習慣の定着	・頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均 5 人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ・学校評価アンケートにおいて、生徒は約 9 割の生徒が挨拶を心掛けていると回答しているが、職員は生徒が挨拶や返事、日常生活のマナーが守られていると回答したのは約 7 割と捉えに開きがある。	・頭髪服装指導において再検査を受けなければならない生徒の減少。 ・挨拶、返事、頭髪服装等の基本的生活態度が良好な状態が維持され、生徒の肯定的自己評価が 90%以上、職員の肯定的評価が 75%以上となる。	・日常的な指導と定期的な全体指導の充実。 ・指導ノートの有効活用。 ・生徒・保護者ファーストな姿勢による指導。 ・家庭との適時な連携。	・頭髪服装検査で再検査となる生徒数は変わらない。ただ、ほとんどが軽微な違反であり、各学年で細かく指導をしていただいた結果である。 ・学校評価アンケート(12 月)の生徒の回答をみると、7 月と比べ挨拶や返事についての意識が高まっている (7 月:85.4%→12 月:89.5%)。頭髪服装や日常生活のマナーの意識も例年と比べ高い。(12 月アンケート 3 年間の推移 生徒 93.6%→93.9%→97.8%) ・学校評価アンケート(12 月)で「生徒は挨拶や返事、言葉遣いなどで礼儀正しく、日常生活のマナーが守られている」に肯定的評価を回答した職員は 79.3%。	B	・引き続き、妥協せず細かく指導をしていきたい。 ・様々な場面で挨拶が出来るよう、授業・部活動等すべての生徒の活動を通して指導していく。 ・健康観察、養護担当からの個別の指導を継続。
	豊かな人間関係づくり	・SNS を通した人間関係のトラブルが存在。 ・周囲への配慮に欠けた言動をとる生徒がいる。	・SNS の適切な利用、携帯電話等のマナーが定着。 ・周囲に配慮した言動ができる。 ・生徒にとって学校が安心で安全な場所である。	・ケータイ・インターネットマナー研修会等の指導を継続して実施。 ・生徒の小さな変化を見逃さず早期に対応する。	・学校評価アンケート(12 月)の結果をみると、ここ数年に比べてケータイ・スマートフォンのルール・マナーや依存に対する意識は生徒保護者ともに高まっている。(12 月アンケート 3 年間の推移 生徒 95.9%→97.2%→98.9%、保護者 79.9%→79.6%→84.1%) ・生徒のほとんど(98.9%) が携帯・スマートフォンに関するトラブルが起きないよう、ルール・マナーを守っている。また、約 96.7%の生徒が携帯・スマートフォンに頼りすぎず、相手と直接話すことを大切にしている。しかし、保護者の約 20%が子どもは使用マナーを守っていないと感じているので、意識の差が見受けられる。 ・約 14%の保護者が家庭内での携帯使用のルールは必要ないと考えており、保護者に対しての啓発活動が必要である。	C	・全校集会・学年集会・HR 等、あらゆる機会を通じて、ケータイ・スマートフォンの扱い方や、SNS の危険性について啓発活動を行っていく。 ・情報モラル講演会等を利用して、携帯・スマートフォンについて、トラブルに巻き込まれないよう注意喚起を継続しながら、家庭での使い方を含め使用ルール・マナーの指導に当たる。

	具体的項目	平成 31 年度当初			評価結果(2月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 主体的学 びの支援	基礎学力の 向上	・基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。 ・教職員の中にイワッツ検定の見直しを求める意見が存在。 ・家庭での学習時間の平均は 69 分、学習時間 30 分未満の生徒は全体の 10%未満と、学習習慣はすこしずつ定着してきた。	・課題や学校での学習の分量に応じた家庭学習が継続して行われている。 ・保護者アンケートで「家庭学習が毎日 1 時間以上できている」に肯定的な意見が 40%以上。 ・1・2 年生の基礎力診断テストにおいてDゾーンの生徒数が年度初めより 5%以上減少する。	・リスタート学習における適切な指導。 ・イワッツ検定の在り方を含め教育改革委員会を設置し今後の岩美高教育の在り方について検討する。 ・家庭学習が見込まれる課題の提示と、適切な評価の実施。	・1 学年や各教科でリスタート学習の取り組みを行った。生徒の基礎学力の向上感は約 9 0 %を超えているものの、客観的に高校学習水準に到達しているかどうかは懐疑的である。 ・平常時（4・8・1 0 月）の家庭学習時間の平均は 7 5 分、3 0 分未満の生徒は平均で 1 0 %であった。通年においては昨年の平均より増加の傾向を示した。学校評価アンケート(12 月)で「毎日 1 時間以上できている」に肯定的な評価の保護者は昨年(33.5%)より低下して 29.9%であることより実態的には習慣化に至っていない。 ・2 回目の基礎学力診断テスト（1 年生のみ実施）において、5 月に実施した第 1 回目の結果と比較すると、かなり成績が上昇している（国数英総合の D3 層の人数が 28 名減少）。課題をやる習慣が身についていなかった生徒が多かった中、日々の学習の取組について各教科担当者が徹底的に取り組ませてきたこと、長期休業中の課題に粘り強く取り組ませたこと、宿泊ガイダンス時に実施した国語、数学、英語の基礎学力テストの結果を受けて、9 月に実施した基礎学力強化週間に始まった補習への取り組みが功を奏したものと思われる。	C	・各教科でリスタート学習の取り組みを継続して行う。 ・「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。
	学習指導の 改善	・授業やイワッツ検定をとおして学力がついたと感じる生徒が 77%。 ・評価アンケートにおいて生徒は「授業に集中しやすい環境」が 86%、「自分の意見や考えを発表する機会あり」が 85.5%、「授業のねらいと板書内容が明確」は 85.5%の肯定評価。「絵や写真等でわかりやすい」は中間評価より 1 割程増加し 75.4%となった。 ・保護者の 80.8%が「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答。	・各教科に対する生徒の興味関心が年度当初より向上している。 ・授業に関する評価で肯定的な評価をする生徒が各項目とも 85%以上。 ・「一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われている」と回答する保護者が 80%以上。	・ICT の活用、AL の実践などを通した学習意欲の喚起。 ・授業参観の促進や授業研修会を充実し、校内の学習指導改善の体制作りを進める。	・学校評価アンケート(12 月)によると 97.3%の生徒が授業にまじめに取り組んでいて、授業に対する各項目の肯定的な評価が何れも 85%以上（時間のねらいがはっきりしており、先生が白板に書く内容もわかりやすい 96.5%、絵や写真などが使われており、わかりやすい 85.1%）であるとともに保護者の評価もほぼ 80%（一人一人を大切にした指導やわかりやすい授業が行われていると思う 79.9%）であることより主体的な学びに繋がる学習支援の維持ができています。 ・学校評価アンケート(12 月)によると職員の各種研修会への参加は 72.4%で昨年(65.5%)より向上傾向、授業の改善や工夫の取り組み状況は 82.8%である程度の水準を維持しているものの年々低下(昨年 86.2%)していることより意識の高揚を図る必要がある。	B	・授業評価アンケートの結果を踏まえて生徒の視点から学習指導を行い、生徒の主体的な学びの維持を図る。 ・授業参観の促進や授業研修会の充実を図り、校内の学習指導改善の体制作りを進める。
4 自己肯定感の伸 長	教育環境の 改善	・生活満足度調査では自己肯定感の低い生徒が多い。 ・生活満足度調査で「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒が全校で 10%強存在する。 ・岩美高版 UD 等チェックリストを作成し効果的な指導・支援に取り組んでいる。	・UD を意識して教育活動を展開する教職員の割合が 70%以上。	・生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートを実施する。 ・生徒の自己理解、他者理解を促す取り組みを実施する。 ・生徒の自己肯定感を高めるための取り組みのヒント等を教職員向けに情報発信する。 ・岩美高版 UD チェックリストを用い、教職員各自が取組を振り返ったり改善を工夫したりする。	・生活満足度アンケート(10 月)において、「やればできと思う」「自分のことが好きである」としばしば感じている生徒、並びに「何をやってもうまくいかない気がする」と感じていない生徒が全学年で増加した。 ・「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒は 13.4%であった。 ・毎朝の健康観察を実施し、心の健康問題や感染症の早期発見、早期対応に努めた。 ・QU結果検討会を行い、学級経営、個別支援について研修を行なった。 ・人間関係づくりを学ぶ講演会、ことばといのちの講演会を全校生徒対象に実施した。また教職員を対象に鳥取法務少年支援センターから講師を招き研修会を実施した。 ・UD を意識して教育活動を展開する教職員の割合は 72.4%であった。	C	・「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒については、個別に面談等を行い個に応じたサポートを継続する。 ・各種アンケート結果を担任、生徒へできるだけ早く還元する。 ・生徒の自己理解、他者理解を促す取り組みのヒントを得るための、講演会や職員研修会を実施する。
5 地域と連携した学 校づくり	岩美町との 効果的な連 携	・ジオパーク学習、イワッツミッション、インターンシップなどで岩美町と連携した取組を実施。	・地域連携、地域貢献の取り組みを通して、生徒が、自らが居住する地域を支える存在であることを自覚する。	・岩美町地域連携コーディネーターとの効果的な連携。 ・イワッツミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保する。 ・ホームページ掲載、報道機関への情報提供など情報発信につとめる。	・学校評価アンケート（12 月）において、「地域と連携した活動にも取り組み地域に貢献したいと思う」生徒が 79.0%（前年比+2.4）。また、「地域と連携し、地域に貢献する活動が生徒の人間力育成に効果を上げている」と考える保護者が 89.6%、職員が 79.3%であり、活動に対し概ね理解が得られていると言える。 ・地域連携コーディネーターとも密に連絡を取り、活動を進めることができた。 ・鳥取中央育英高校でのハイスクールサミットへ参加し、生徒の活動を周囲に広めることができた。成果発表会を岩美町中央公民館いわみんホールで実施する予定だったが臨時休業のため中止となった。 ・ホームページ、県教委を通した情報発信を積極的に実施	B	・イワッツミッションについては引き続き地域との連携を進めながら活動を展開する。 ・1 年時のジオパーク学習と 2 年時のイワッツミッションの関連性をより明確にする。 ・イワッツミッションのテーマ決めや進め方については担当学年と連携し、よりよい形をめざす。 ・町内企業説明会の実施の継続。 ・地元事業所におけるインターンシップの受け入れによる連携の推進。 ・コーディネーター不在となる来年度の地域連携の充実が課題
	授業・部活 動等を通し た地域連携 の実施	・体育・福祉の授業や部活動単位で地域との交流を実施。	・参加した生徒の自己有用感が向上し、人間的に成長する。	・生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。	・イワッツミッション実施にあたり統一テーマを設定するなど従来とは異なる手法での展開を実施。 ・地歴、体育、農業、福祉の授業、陸上競技部、野球部、ソフトボール部、バレーボール部、茶道同好会、吹奏楽部が地域と連携した取組を実施。	B	・生徒、職員に過重な負担がかからないように配慮しながら、可能な限り地域の要請に応える。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]